

## 標本誤差の概要（二人以上の世帯）

### 1 全国の年平均支出金額の標準誤差率

勤労者世帯と個人営業世帯や無職世帯などの勤労者以外の世帯とを合わせた二人以上の世帯（集計世帯数（平成 25 年 1 か月平均）：7,784 世帯）の平成 25 年平均をみると、消費支出金額は、1 世帯当たり 1 か月平均 290,454 円で、その標準誤差は 1,097 円、標準誤差率は 0.4%であった。

消費支出の費目別の標準誤差率をみると、食料が 0.2%、住居が 2.4%、光熱・水道が 0.3%、家具・家事用品が 1.0%、被服及び履物が 0.8%、保健医療が 1.0%、交通・通信が 1.4%、教育が 2.4%、教養娯楽が 0.8%、「その他の消費支出」が 0.7%となっている。このように、標準誤差率は、世帯にとって必需性の高い食料、光熱・水道では低く、世帯にとって選択性の高い住居、教育などの費目では高くなっている。

平成 20 年平均の標準誤差率と比べてみると、消費支出は 0.1 ポイントの上昇となっている。これを費目別にみると、住居、交通・通信、教育でそれぞれ 0.2 ポイント上昇しているほか、教養娯楽でも 0.1 ポイント上昇している。一方、食料や光熱・水道、保健医療、その他の消費支出では変わらず、家具・家事用品、被服及び履物ではそれぞれ 0.1 ポイント低下している（図 1，表 1）。

図1 費目別支出金額の標準誤差率（全国・二人以上の世帯）

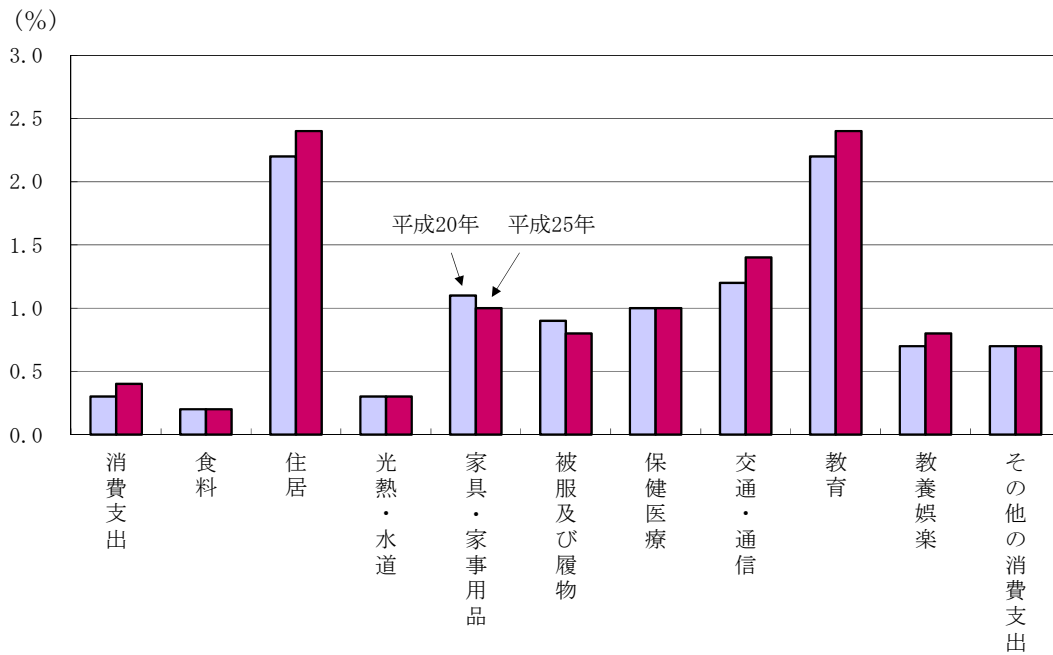


表1 費目別支出金額の平均値、標準誤差、標準誤差率（全国・二人以上の世帯）

項目	平成20年			平成25年			平成20年 ～25年
	平均値 (円)	標準誤差 (円)	標準誤差率 (%)	平均値 (円)	標準誤差 (円)	標準誤差率 (%)	標準誤差率の 上昇・低下幅 (ポイント)
集計世帯数	7,818	-	-	7,784	-	-	-
消費支出	296,932	1,021	0.3	290,454	1,097	0.4	0.1
食料	69,001	140	0.2	68,604	142	0.2	0.0
住居	16,897	369	2.2	18,262	434	2.4	0.2
光熱・水道	22,762	58	0.3	23,240	61	0.3	0.0
家具・家事用品	9,984	110	1.1	10,325	104	1.0	-0.1
被服及び履物	12,523	114	0.9	11,756	90	0.8	-0.1
保健医療	12,649	128	1.0	12,763	134	1.0	0.0
交通・通信	39,147	471	1.2	41,433	592	1.4	0.2
教育	12,727	286	2.2	11,539	272	2.4	0.2
教養娯楽	31,372	218	0.7	28,959	219	0.8	0.1
その他の消費支出	69,869	500	0.7	63,573	454	0.7	0.0
うち諸雑費	22,511	282	1.3	23,646	266	1.1	-0.2
うち交際費	25,859	272	1.1	22,942	230	1.0	-0.1

## 2 全国の月別支出金額の標準誤差率

消費支出の標準誤差率を費目別、月別にみると、食料や光熱・水道については、月による差は0.3ポイント程度とほとんどみられない。また、住居や教育を除くその他の費目についても、月による差は2.5ポイント以内となっている。

住居については、月による違いが他の費目よりも大きい。また、教育については、学校の授業料等の支払い時期である2～3月及び9～10月を中心に、標準誤差率が高くなっている。

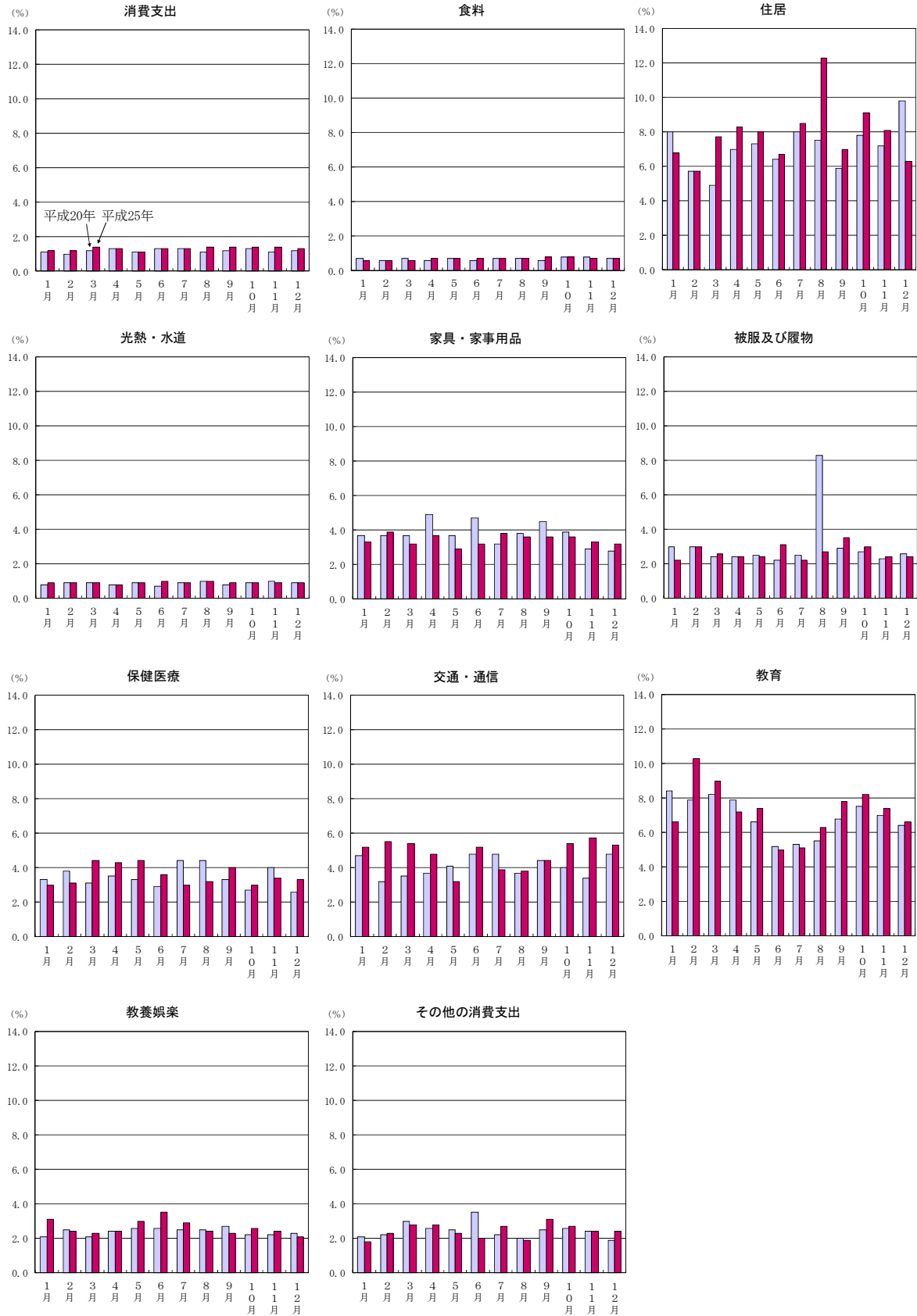
平成20年と比較しても、いずれの費目もおおむね同様の傾向となっている(図2, 表2)。

表2 費目及び月別支出金額の標準誤差率(全国・二人以上の世帯)

月	標準誤差率 (%)											
	消費支出		食料		住居		光熱・水道		家具・家事用品		被服及び履物	
	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年
1月	1.1	1.2	0.7	0.6	8.0	6.8	0.8	0.9	3.7	3.3	3.0	2.2
2月	1.0	1.2	0.6	0.6	5.7	5.7	0.9	0.9	3.7	3.9	3.0	3.0
3月	1.2	1.4	0.7	0.6	4.9	7.7	0.9	0.9	3.7	3.2	2.4	2.6
4月	1.3	1.3	0.6	0.7	7.0	8.3	0.8	0.8	4.9	3.7	2.4	2.4
5月	1.1	1.1	0.7	0.7	7.3	8.0	0.9	0.9	3.7	2.9	2.5	2.4
6月	1.3	1.3	0.6	0.7	6.4	6.7	0.7	1.0	4.7	3.2	2.2	3.1
7月	1.3	1.3	0.7	0.7	8.0	8.5	0.9	0.9	3.2	3.8	2.5	2.2
8月	1.1	1.4	0.7	0.7	7.5	12.3	1.0	1.0	3.8	3.6	8.3	2.7
9月	1.2	1.4	0.6	0.8	5.9	7.0	0.8	0.9	4.5	3.6	2.9	3.5
10月	1.3	1.4	0.8	0.8	7.8	9.1	0.9	0.9	3.9	3.6	2.7	3.0
11月	1.1	1.4	0.8	0.7	7.2	8.1	1.0	0.9	2.9	3.3	2.3	2.4
12月	1.2	1.3	0.7	0.7	9.8	6.3	0.9	0.9	2.8	3.2	2.6	2.4

月	標準誤差率 (%)									
	保健医療		交通・通信		教育		教養娯楽		その他の消費支出	
	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年	平成20年	平成25年
1月	3.3	3.0	4.7	5.2	8.4	6.6	2.1	3.1	2.1	1.8
2月	3.8	3.1	3.2	5.5	7.9	10.3	2.5	2.4	2.2	2.3
3月	3.1	4.4	3.5	5.4	8.2	9.0	2.1	2.3	3.0	2.8
4月	3.5	4.3	3.7	4.8	7.9	7.2	2.4	2.4	2.6	2.8
5月	3.3	4.4	4.1	3.2	6.6	7.4	2.6	3.0	2.5	2.3
6月	2.9	3.6	4.8	5.2	5.2	5.0	2.6	3.5	3.5	2.0
7月	4.4	3.0	4.8	3.9	5.3	5.1	2.5	2.9	2.2	2.7
8月	4.4	3.2	3.7	3.8	5.5	6.3	2.5	2.4	2.0	1.9
9月	3.3	4.0	4.4	4.4	6.8	7.8	2.7	2.3	2.5	3.1
10月	2.7	3.0	4.0	5.4	7.5	8.2	2.2	2.6	2.6	2.7
11月	4.0	3.4	3.4	5.7	7.0	7.4	2.2	2.4	2.4	2.4
12月	2.6	3.3	4.8	5.3	6.4	6.6	2.3	2.1	1.9	2.4

図2 費目及び月別支出金額の標準誤差率(全国・二人以上の世帯)



### 3 地方別年平均支出金額の標準誤差率

消費支出の標準誤差率を地方別にみると、関東が0.7%、近畿が0.8%、九州が0.9%と低く、四国が1.9%、沖縄が1.6%、東北及び北陸が1.5%と高くなっている。

費目別の標準誤差率をみると、食料及び光熱・水道は全ての地方区分で0.2%から1.2%で、その差は1ポイント以内に含まれており、地域間の差は小さくなっている。一方、住居及び教育は、全ての地方で4.0%から13.8%と他の費目に比べて高くなっており、地域間の差も大きくなっている（表3、図3-1）。

なお、標準誤差率と集計世帯数の関係をみると、集計世帯数が多いほど標準誤差率は低くなる傾向がみられ、地域間の標準誤差率の差は集計世帯数（サンプル数）の違いに一因があると考えられる（図3-2）。

表3 費目及び地方別支出金額の標準誤差率（二人以上の世帯）

平成25年

地方	集計世帯数	標準誤差率 (%)										
		消費支出	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	その他の消費支出
全 国	7,784	0.4	0.2	2.4	0.3	1.0	0.8	1.0	1.4	2.4	0.8	0.7
北 海 道	277	1.4	0.8	8.0	1.1	4.9	3.4	3.0	5.7	10.7	2.9	2.3
東 北	777	1.5	0.9	7.8	0.9	3.6	2.6	2.5	5.6	9.6	3.0	3.0
関 東	2,046	0.7	0.4	4.4	0.5	1.8	1.3	1.9	2.6	4.0	1.3	1.3
北 陸	521	1.5	0.8	9.3	1.2	4.3	5.4	3.3	5.0	7.5	2.2	2.8
東 海	719	1.1	0.8	6.7	0.9	3.0	2.2	3.3	3.9	7.3	2.7	2.1
近 畿	1,044	0.8	0.2	5.9	0.5	2.4	1.7	2.9	3.8	5.3	1.6	1.7
中 国	636	1.2	0.5	7.7	0.7	2.9	2.4	2.8	5.8	8.1	2.1	2.6
四 国	467	1.9	0.8	11.6	1.2	6.4	4.6	6.2	5.8	9.9	2.8	4.9
九 州	1,032	0.9	0.4	5.5	0.7	2.7	2.3	2.2	4.0	5.5	1.6	1.9
沖 縄	265	1.6	1.2	8.4	1.0	4.2	3.5	4.4	5.3	13.8	4.0	2.5

図3-1 地方別消費支出金額の標準誤差率（二人以上の世帯）

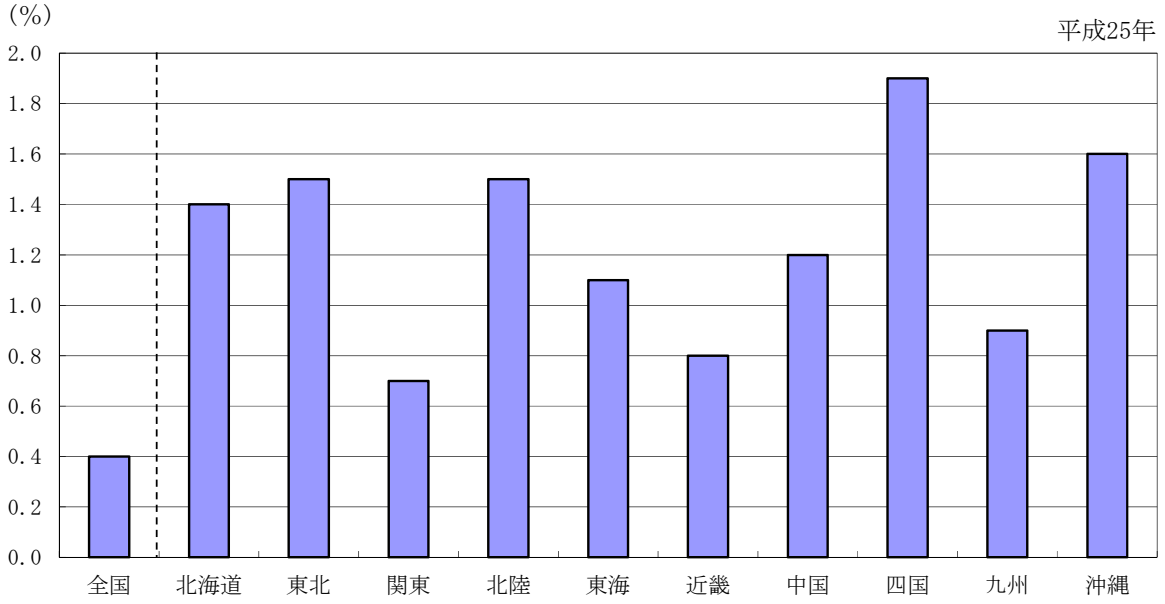
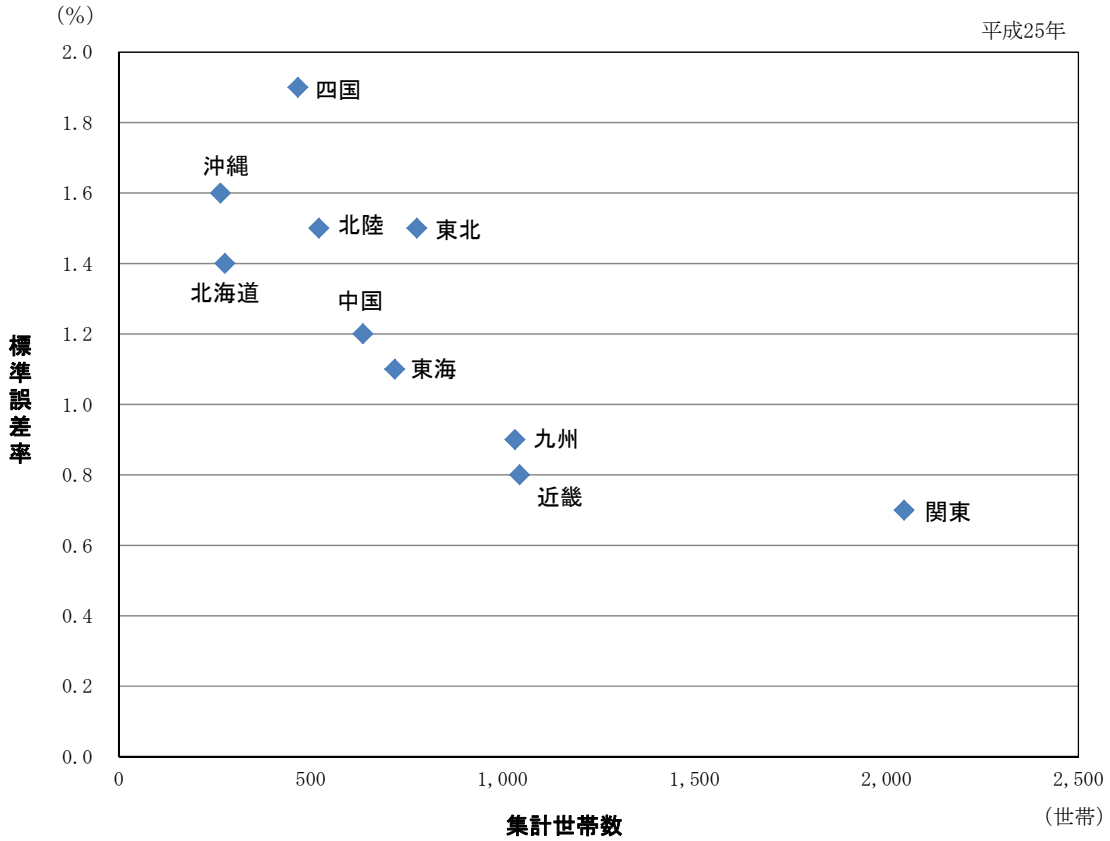


図3-2 地方別にみた消費支出金額の標準誤差率と集計世帯数の関係



#### 4 世帯人員別年平均支出金額の標準誤差率

消費支出の標準誤差率を世帯人員別にみると、2人世帯が0.6%と最も低く、5人以上世帯が1.1%と最も高くなっている。

費目別の標準誤差率をみると、食料及び光熱・水道は全ての世帯人員区分で1%未満となっており、世帯人員間の差は小さくなっている。その他の費目では、住居及び教育は全ての世帯人員区分で3%以上となっており、中でも2人世帯の教育は24.0%と、他の費目・世帯人員区分に比べて高くなっている（図4、表4）。

図4 世帯人員別消費支出金額の標準誤差率（全国・二人以上の世帯）

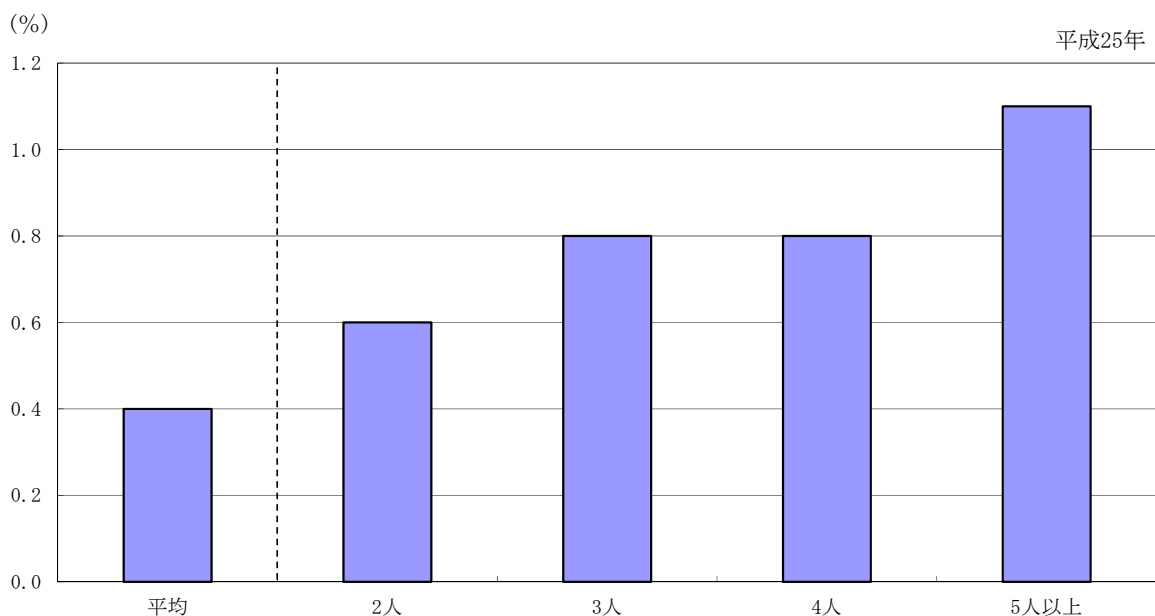


表4 費目及び世帯人員別支出金額の標準誤差率（全国・二人以上の世帯）

平成25年

世帯人員	集計世帯数	標準誤差率 (%)										
		消費支出	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	その他の消費支出
平均	7,784	0.4	0.2	2.4	0.3	1.0	0.8	1.0	1.4	2.4	0.8	0.7
2人	3,312	0.6	0.3	3.1	0.4	1.6	1.3	1.7	2.4	24.0	1.2	1.2
3人	2,000	0.8	0.4	4.6	0.4	1.9	1.4	1.6	3.0	6.0	1.5	1.2
4人	1,707	0.8	0.4	6.6	0.5	2.0	1.6	2.4	2.7	3.0	1.4	1.4
5人以上	764	1.1	0.7	6.8	0.9	3.1	2.3	3.3	3.7	4.6	2.4	2.4